

【題材名】 第1学年 国語科書写「北西」

【内容】 「北西」のお手本をカメラで撮影し、スライドを使い、ポイントの説明を行った。

【使用アプリ】 カメラ、スライド

【事例紹介】 教師がお手本の動画を撮影し、生徒がとめ・はね・はらいのポイントを理解しやすいようスライドにまとめた。具体的な書き方を資料として用意し、生徒に提示することで、主体的・対話的な学びを充実させる。

①資料 動画で「北西」の書き順を確認した。



動画を大型提示装置で流すことで、お手本を何度も見ることができるようになった。

②資料 動画で「北西」のポイントを確認した。



「北」と「西」のそれぞれのポイントを解説し、とめ・はね・はらいを重点的に学習した。

【解説】 動画作成は、様々な角度で撮影できることから実技のお手本としての役割を果たすことができます。実際の筆使いをスローモーションで流すことにより、書き順やポイントを視覚的に分かりやすくしたり、何度も見返したりすることができ、学びを一層充実させることができます。

(教育委員会主幹講評) 愛媛県 ICT 教育推進ガイドラインの「愛媛の教員が身に付けるべき ICT 活用スキル」の中に「動画を撮影して著作権や肖像権等を侵害しないよう編集し、教材を作成できる。」という項目があります。この事例は、中学校書写の教科書に QR コードから参照できる動画素材も準備されていますが、「とめ・はね・はらい」に重点を置き、生徒の目線からより分かりやすい動画教材を自作し活用している好事例です。ICT 機器の進歩により、動画の撮影・編集がずいぶん簡単にできるようになりました。自分の授業スタイルに沿った自作の解説動画や導入教材等を自作している先生方も多いと思います。校内や教科会で共有すれば実践を広げるための共有財産になります。動画撮影は難しいと躊躇している先生は、一度挑戦してみてください。